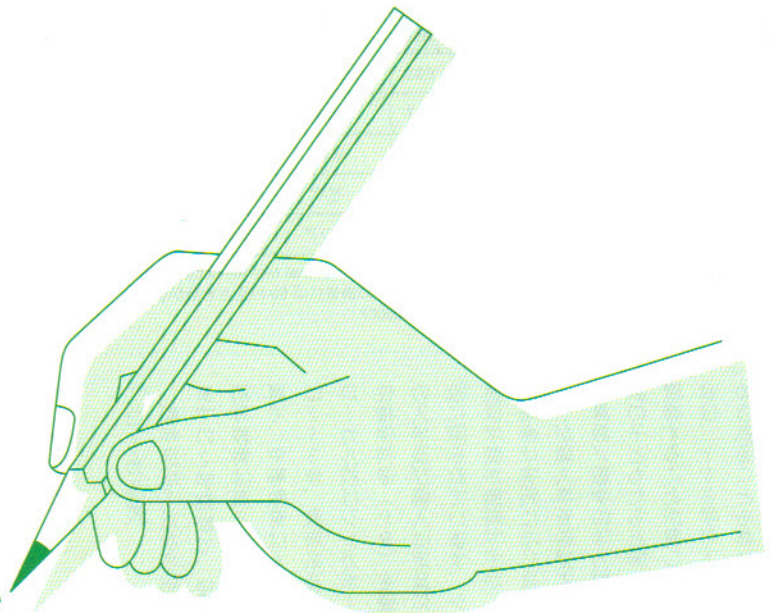


シンガポールの教育事情とは？



シンガポールの教育事情.....	156
シンガポールの幼児教育事情.....	158
幼稚園ガイド.....	160
シンガポール日本人学校.....	162
早稲田渋谷シンガポール校／シンガポール日本語補習授業校.....	165
インターナショナルスクールの学習と進路.....	166
インターナショナルスクール・ガイド.....	167
海外への大学進学.....	168
帰国受験.....	170
学習塾ガイド.....	173

シンガポールの教育事情

高い教育水準を誇るシンガポールには、日本人にとっても魅力的な教育環境が整っています。この章では、多くの選択肢の中からお子さんに最適な学校を選び出す上で、知っておきたい当地の教育事情、将来の進路選択に備えた心構えなどを紹介します。

世界トップレベルの学力と学歴社会

シンガポールは国際的な学力調査でも明らかのように、世界でもトップクラスの教育レベルを誇ります(表1参照)。しかしその背景には、小学生から学力・能力別に振り分けが行われ、試験の成績で進路が決まるという厳しい学歴社会があります。このためシンガポール人の親たちは、子どもが小さな頃から塾や習い事に通わせ、有名校に入学させるために通学圏内に引越したり、入学申込の優先順位を上げるためにボランティアや地域活動に励むなど、わが子の教育のためにあらゆる努力を惜しみません。

その一方で、こうした学力至上主義から生まれた様々な弊害が深刻な社会問題となっていたことから、近年ではカリキュラムを見直し、進路選択の幅を広げるなど、教育制度の改革が年々進められています。

(表1) TIMSS 国際数学・理科教育動向調査 2007 トップ5

順位	小学4年算数	平均得点	中学2年数学	平均得点	小学4年理科	平均得点	中学2年理科	平均得点
1	香港	607	台湾	598	シンガポール	587	シンガポール	567
2	シンガポール	599	韓国	597	台湾	557	台湾	561
3	台湾	576	シンガポール	593	香港	554	日本	554
4	日本	568	香港	572	日本	548	韓国	553
5	カザフスタン	549	日本	570	ロシア	546	イングランド	542

※ TIMSS 国際数学・理科教育動向調査：TIMSS (Trends in International Mathematics and Science Study) が4年ごとに実施している国際数学・理科教育動向調査。2007年の調査には59の国と地域が参加。
 <参考> TIMSS2007 公式サイト <http://timss.bc.edu/timss2007>

最適な学校選びのために

教育における在星日本人の選択肢としては、ローカル校、日本人学校、インターナショナルスクールがあります。まずはそれぞれの最新情報を集め、在星予定年数、今後の転動先、本人の希望、将来の進路、目標とする語学力、日本語力の維持、教育費の負担なども考慮しながら、家族で十分に話し合います。また、希望する学校にはできるだけ見学に行き、校内の雰囲気や生徒の様子などを実際に把握した上で、最終的な判断をすることをおすすめします。

①ローカル校

新年度は1月から始まり、11月半ばまでの2学期制で、授業は週5日制。初等教育は満6歳から6年間の義務教育で、中等教育は4〜5年、高等教育は2〜3年。政府系及び政府助成系のローカル校はシンガポール国籍及び永住権保持者(P.R.)を優先し、外国人の入学及び編入は定員に空きのある学校に限られています。シンガポール国民は学費が無料ですが、P.Rや外国籍の場合は有料になります。外国籍の子どもが編入学を希望する場合は、英語と算数/数学の学力試験を受け、同年齢の子どもたちと同じカリキュラムを履修することが難しいと判断された場合は、1〜2学年下の学年に編入が認められることもあります。また、第二言語として中国語・マレー語・タミル語のいずれかが必修となりますが、外

国人生徒の場合は学校長を通じて教育省に申請すれば、履修の免除が認められることもあります。授業は基本的に英語で行われ、日本のカリキュラムとは全く異なるため、ある程度の成績を維持するには相当な努力が必要です。また、英語の発音が「シングリッシュ」になることは避けられません。

★ローカル校に関する情報↓次ページ

なお、私立のローカル校の中には、San Yu Adventist School (www.syas.edu.sg) や St. Francis Methodist School (www.sfrms.edu.sg) のように、政府/政府助成系に準じた教育を行いながら、外国人生徒を積極的に受け入れている学校もあります。

②日本人学校

新学期は4月で、週5日の3学期制。8月の夏休みと3月の春休みが各1カ月あります。日本国籍を持つ義務教育年齢の子どもで、保護者がシンガポール日本人会の会員であれば、いつでも編入学が可能です。小学校2校と中学校1校は文部科学省の認可を受けて在在外教育機関で、教育内容も充実しており、日本へ帰国後も学習面で困ることはありません。また、保護者の転動に伴う生徒の入れ替わりが多いことから、転入生がスムーズに学校生活に溶け込める環境も整っています。

小・中学校とも英語教育に力を入れており、体育、音楽、図工(美術)などは、ネイティブの教師が英語で授業を行う「イマージョン」を採用。英語の授業は小1から習熟度別に10段階以上に分かれた少人数クラスで丁寧な指導が行われ、中学も初級・中級・上級のレベル別に授業が行われます。しかし、通常の授業や日常会話は日本語のため、英語で自由にコミュニケーションできるレベルまで上達するのはかなり難しいと言われています。

③インターナショナルスクール

★日本人学校に関する情報↓162ページ

新学期は8月から始まる学校が多く、2学期制または3学期制。授業は週5日制で、6〜7月の約2カ月は夏休みとする学校がほとんどです。IB(インターナショナルバカロレア機構)の世界共通の教育プログラムや、各国の教育制度に沿ったカリキュラムなど、カリキュラムは学校ごとに異なります。編入学は基本的に定員に空きがあれば随時申し込むことができますが、人気の高い学校では編入学希望者のウェイティングリストに入ってから数週間〜数カ月待たなければならぬ場合もあります。

授業は英語で行われますが、英語を母国語としない生徒へのサポート体制が整っている学校から、編入学に際してある程度の英語力を求める学校まで、対応はさまざまです。国際色豊かな環境の中で、語学力やグローバルな感覚を養うことができますが、いずれ日本に帰国する予定がある場合は、日本語の読み書きや日本的なマナーなどは家庭内できちんとフォローしていく必要があります。学費は学校ごとに異なり、一般的にローカル校や日本人学校よりも高額になります。

★インターナショナルスクールに関する情報↓167ページ

シンガポールの幼児教育事情

シンガポールの幼児教育環境は、ローカル幼稚園、日系幼稚園、インターナショナルスクールなどそれぞれに特色があり、選択肢も豊富です。日本とは教育制度も言語も異なる中で、一人ひとりのお子さんに最適な幼児教育環境を選ぶよう、知っておきたいシンガポールの幼児教育の現状や、幼稚園選びのポイントをご紹介します。

シンガポールの就学前教育

6歳以下の就学前の幼児を対象とする教育機関としては、「幼稚園 (Kindergarten)」と「チャイルドケアセンター (Child Care Centre)」があります。シンガポールは小学校4年生から段階的に学力別に振り分けられて進路が決まるといって、日本以上に厳しい学習社会。このため幼少期からの教育熱も高く、幼稚園・チャイルドケアセンターともに教育プログラムの充実にも力を注いでいます。外国籍の子どもたちの教育にも対応したプログラムを提供している園も多く、幼少期から様々な言語や文化に触れながら国際感覚を養い、優れた幼児教育を受けられるのは、シンガポールならではの貴重な経験といえるでしょう。各園の環境や本人の適性、在学年数、各家庭の教育方針にもよりますが、英語や第二言語がある程度のレベルに達すれば、ローカル校

インターナショナルスクールへの進

学の道も開けます。

海外で生活しているからこそ日本語や日本の伝統文化に親しみ、日本人としてのアイデンティティを大切にしたいと考える場合は、日本人幼稚園や日系幼稚園という選択肢もあります。国際結婚の家庭だから国際的な教育を受けさせたい、将来他の外国へ転勤や移住の可能性があるといった場合は、インターナショナルスクールの幼児教育部門を選ぶこともできます。それぞれの教育機関の概要及び特色は次の通りです。

(1) 幼稚園 (Kindergarten)

MOE (教育省) の認可のもと、4〜6歳児を対象に週5日、1日3〜4時間の就学前教育を行います。学期はシンガポールの他のローカル校と同様、1月に新学期を迎える4学期制。1学期は10週間で、各学期が終わると「スクールホリデー」として、1学期の後に1週間、2学期

の後に4週間、3学期の後に1週間、4学期の後に6週間の一斉休暇があります。

4歳児クラスは「ナーサリー(N)」、5歳児クラスは「キンダーガーテン1(K1)」、6歳児クラスは「キンダーガーテン2(K2)」とよばれ、各年齢に応じたカリキュラムで学びます。英語と同時に第2言語 (母語) として中国語、マレー語、タミル語のいずれかを学び、ローカル校への入学に備えた基礎学力を身につけ、社会生活の基本となる規律や道徳、協調性、探求心、自立心、健やかな心身を育むことを目的としています。編入園の条件等は各園で異なり、受け入れの可否も定員の空き状況や時期等によるので、個別に問い合わせを。

(2) チャイルドケアセンター (Child Care Centre)

MCYS (地域振興・青年スポーツ省) の認可のもとで、7歳未満の子どもたちを対象に全日または半日の保育を行います。対象年齢は通常1歳半 (18カ月) 以上ですが、「Infant Care Centre (乳児ケアセンター)」を併設している場合は生後2カ月からの保育も可能です。シンガポールは共働きの家庭が多いことから、平日は朝7時頃から夕方7時頃まで延長保育を行なう園も多く、土曜保育にも対応。日曜・祝日を除いて休園日はほとんどなく、年間を通して預けることができます。入園に際しては、日本の保育園のように両親が共働きである必要はありません。

せん。半日保育や週3日保育など、年齢や家庭の事情に応じて保育時間を選ぶこともできます。編入園は定員に空きがあれば随時可能で、体験入園ができる園もあります。

保育内容は園ごとに異なり、幼稚園と同様に英語+中国語等のバイリンガル環境でローカル校入学に備えた教育を行なうほか、モンテッソーリ教育やオリジナルの幼児教育プログラムを取り入れている園も数多くあります。このほか、体操、音楽、図画工作、ダンス、演劇など、園児の興味や関心に応じて選択できる課外プログラムを提供したり、日本人教師が常勤して日本語の授業を行っている園もあります。

(3) インターナショナルスクール

世界中から様々な国籍の人々が集まるシンガポールには、インターナショナルスクールも多く、各国の教育事情に添ったカリキュラムや、世界共通のIB PYP (インターナショナルバカロレア初等教育プログラム) など、各校ごとに特色ある幼児教育を行っています。編入学の可否は定員の空き状況にもよりますが、人気の高い学校では欠員が出るまで数週間〜数カ月間待たなければならぬ場合もあります。学校によっては6〜8月にかけて約2カ月の夏季休暇の中に「サマースクール」として、英語の集中コースや、アート、スポーツなど、さまざまな幼児教育プログラムを提供しており、在校生以外でも参加できるので、体験入園を兼ねて参加してみるという方法もあ

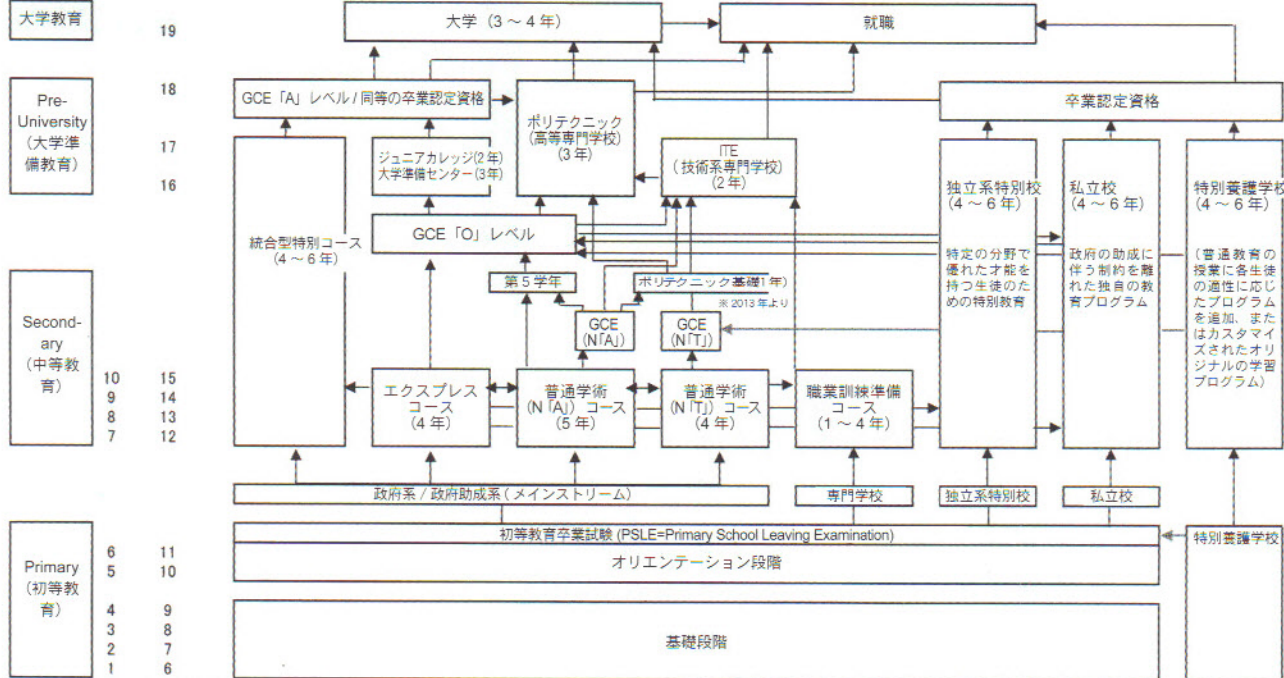
ります。

日常生活や授業に英語は必須であるため、初めて英語環境を経験する場合はESL (英語を母国語としない生徒のための集中学習クラス) で学んでから通常の授業に参加できるように配慮している学校も多くみられます。同じ英語圏でもアメリカ英語、イギリス英語、オーストラリア英語など、国によって多少の違いはありますが、いずれもシンガリッシュではない英語を身につけることが可能です。学校の行事やボランティア活動などに保護者の参加を奨励している学校も多いため、親にとってもさまざまな国の人々と知り合い、英語力の向上や交流の輪を広げることができるといっても過言ありません。

語学の習得は年齢が小さいほど早いものの、在学年数が長くなるにつれて日本語に苦手意識を持ちやすくなるので、日本へ帰国する予定がある場合は、家庭でのフォローも大切です。日本語のあいさつや言葉づかい、日本的なマナーなどを日頃からきちんと教えるように心がけると共に、日本のテレビ番組やアニメ、絵本などを通して、本人が日本への興味や関心を持ち続けられる環境を作ることも大切です。

(4) 日本人幼稚園

広い芝生の園庭やプールもある充実した施設環境の中で、文部科学省幼稚園教育要領に基づく日本国内の幼稚園と同様の幼児教育を行っています。授業にはシンガポールの多文



(出典 シンガポール教育省 [MOE] <http://www.moe.gov.sg>)

シンガポールでは、生徒の学力や適性によって進路を振り分ける試験を段階的に行っています。まずプライマリースクール(小学校)4年生修了時に「Streaming(ストリーミング)」と呼ばれる試験を受け、その結果に応じて「オリエンテーション段階(5~6年生)」でレベル別に振り分けられます。次に6年生修了時の「PSLE(初等教育卒業試験)」の成績によって、本人の希望と学力レベルに応じたセカンダリースクール(中学校)に進みます。中学では4年生または5年生修了時に受けるGCE「N」またはGCE「O」という中等教育卒業試験の結果で進路が分かれ、大学準備教育課程(高等学校)修了時にはGCE「A」という卒業資格認定試験の結果でその後の進路が決まります。

(表2) 新1年生入学申請手続の優先順位

Phase (申請順位)	入学申請条件
1	兄・姉がその学校に通っている
2A (1)	a) 父母が卒業生で同窓会の会員、b) 父母が顧問や経営委員
2A (2)	a) 兄・姉が卒業生 b) 父母がその学校の職員
2B	a) 父母がその学校で40時間以上のボランティア活動の実績がある b) 父母がその学校の運営に係わる教会や派閥の推薦を受けている c) 保護者が地域活動のリーダーで、その実績が認められている
2C	他校で申請不可、または入学が認められなかった
2C (S)	2C終了時点で入学できる学校が未定
3	シンガポール国民及び永住権保持者(PR) 以外

(表3) 2012年度ローカル校の学費

教育段階	国籍	月額(\$S)		
		学費(前年度比)	諸費用*	合計
Primary (小学校)	永住権保持者(PR)	40 (+18)	11	51
	ASEAN加盟国以外	345 (+100)	11	356
	ASEAN加盟国	235 (+50)	16	246
Secondary (中学校)	永住権保持者(PR)	55 (+25)	16	71
	ASEAN加盟国以外	470 (+130)	16	486
	ASEAN加盟国	325 (+65)	22	341
Junior College / Centralised Institute (高等学校)	永住権保持者(PR)	80 (+37)	22	102
	ASEAN加盟国以外	750 (+200)	22	772
	ASEAN加盟国	530 (+100)	22	552

*諸費用は改訂の可能性がありす

シンガポールエデュケーション
<http://app.singaporeedu.gov.sg>
 One Map (最寄の学校や通学圏の検索)
www.one.map.sg

ローカル校への編入学手続

① 新入学 (Primary 1) の場合
 政府系及び政府助成系の学校の Primary 1 (小学1年生) に入学申請できるのは、その年の1月1日時点で満6歳になるシンガポール国民及び永住権保持者(PR)で、自宅から学校まで1km圏内であることが条件です。入学申請は入学前年の6月末から8月中旬まで、左記の優先順位に従って、所定の日時に行います。入学希望者が定員を上回った場合は抽選となり、定員を満たした時点で受付は締め切られます。外国人の場合は、8月下旬の Phase 3 (最終段階) で定員に空きがある学校に限り、入学申請が可能です。

② 編入 (Primary 2~5, Secondary 1~3) の場合
 DPP (家族帯同査証保持者) や、両親のどちらかがシンガポール国籍またはPRの場合は、編入を希望する学校に直接申請手続を行い、英語と数学の Placement Test (学力試験) を受けることができます。入学の可否や編入できる学年などは各校の判断により異なります。

新年度(1月)から編入を希望する場合は、毎年9~10月に実施される共通編入試験「AEIS (Admissions Exercise for International Students)」を受験することもできます。合格者には成績に応じて定員に空きのある学校への編入が認められますが、どの学

校に入るかは教育省が判断するため、生徒が学校を選ぶことはできません。なお、このAEISに不合格、あるいは受験できなかった場合は、2012年度からは、毎年2~3月に実施される「SAEIS (Supplementary Admissions Exercise for International Students)」を受験し、合格すれば同年度内にローカル校に編入ができるようになります。AEIS、SAEISともに受験料は\$672でMOMのウェブサイトで申し込むことができます。卒業試験を控えた Primary 6及び Secondary 4~5への編入は難しいため、各校に直接問い合わせる必要があります。

	幼稚園	チャイルドケアセンター	インターナショナルスクール	日本人/日系幼稚園
管 轄	MOE (*)	MCYS(**)	MOE	MOE
対 象 年 齢	4 ~ 6 歳	18 カ月 ~ 6 歳 (乳児保育や学童保育を行う園もあり)	2 歳前後 ~ 就学前 (各国の教育制度による)	2 歳 ~ 6 歳
新 年 度	1 月	1 月	8 月または 1 月	4 月
学 期	4 学期制 (長期休暇あり)	4 学期制または各国で設定 (長期休暇なし)	2 学期制または 3 学期制 (夏休みが長い)	3 学期制 (日本とほぼ同じ)
言 語	英語 + 中国語 / マレー語 / タミル語のいずれか	英語 + 中国語 / マレー語 / タミル語 / 日本語など (園による)	英語 + 第二言語 (ESL、中国語、ドイツ語、 フランス語、日本語などから 選択)	日本語 + 英語
カリキュラム	ローカル校入学を前提とする 独自の教育プログラム	独自の幼児教育プログラム + 各種情操教育	各国の幼児教育プログラム、 IB PYP など	文部科学省幼稚園教育要領 + オリジナルプログラム
月額保育料の目安 (週5日、全日保育の場合)	S\$100 ~ 950 程度	S\$500 ~ 1700 程度	S\$1000 以上	S\$650 ~ 1100 程度

* MOE = Ministry of Education (シンガポール教育省)

** MCYS = Ministry of Community Development, Youth and Sports (シンガポール地域振興・青年スポーツ省)

の進学が最も多くみられます。

卒園後の進路としては、日本人小学校への進学が最も多くみられます。

化な年中行事と同時に日本の伝統行事にちなんだ遊びなども取り入れ、英語やパソコンを使った授業もあります。

正しい言葉づかいやあいさつ、集団生活のルールなどもきちんと指導しているため、日本の幼稚園からの編入や、急に本帰国が決まった場合も安心です。英語の授業もあるため、英語に親しむことはできますが、園内の日常会話は日本語が基本で、卒園児の多くが日本人小学校へ進みます。年間行事の中には体験入園が可能な場合もあり、編入園は随時受け付けています。

(5) 日系幼稚園

日本語を母国語とする子どもたちのために、日本語と英語を併用したバイリンガル教育を行っています。文部科学省幼稚園教育要領をベースに、日本でも定評のある幼児教育プログラムを取り入れたり、実際に物事を体験しながら自ら考えて学び、豊かな感性を育む独自のカリキュラムを行うなど、いずれも日本人としてのアイデンティティーを大切にしながら、心身ともに健やかな成長を促す教育環境として人気を集めています。

幼稚園・チャイルドケアセンターを探すには

www.moe.gov.sg

幼稚園教育の概要、国内約 500 園の幼稚園リスト、政府認定の優良幼稚園紹介など

<http://preschool.gov.sg>

幼稚園やチャイルドケアセンターをエリア別に検索

www.childcarelink.gov.sg

チャイルドケアセンターをエリア、年齢、保育料などの諸条件別に検索

幼稚園選びの心構え

どの教育環境を選ぶかは、各家庭の事情や教育方針によります。子どもの年齢や性格なども考慮し、家族で十分に話し合ってから、ある程度候補を絞り込んだ時点で、保育環境や園児たちの日常の活動の様子などを実際に見学してみることも大切です。例えば、園によっては商業施設の中やビルの上層階にあり、外遊びができる園庭がないというケースも珍しくありません。見学は事前に電話で申し込めば随時可能という園がほとんどです。体験入園や自由に見学できる一般公開などを行っている園もあります。定員に空きがあれば、入園手続きそのものは比較的容易です。

幼稚園ガイド



Dataの見方

- ①対象年齢／②保育時間／③保育料
／④登録料／⑤保証金／⑥教師数

※保証金の「返金あり」という表現は、退園通知の後、最後の1カ月の授業料に充当する場合も含まれます。

ALPHABET PLAYHOUSE

アルファベット・プレイハウス



- ① 1歳半～6歳
- ② 9:00～17:30
- ③ プログラムにより異なる
- ④ S\$50
- ⑤ 保育料1カ月分(返金あり)
- ⑥ 22名(日本人3名)

サマセット駅近くの都心部にありながらも静かで広々とした環境が整っています。勉強だけではなく、スピーチ&ドラマ、パソコン、そろばん、サッカー、ローラースケートなどのクラスもあり(一部希望者のみ)、子どもたちがさまざまな分野で能力を伸ばし、楽しく過ごせる幼稚園です。多国籍の子どもたちが集まっており、うち約3割が日本人の園児。日本人教師による日本語クラスも用意されているので、英語も日本語も自然に身に付けられます。

16 Dublin Road Tel: 6737-8201

シンガポール日本人幼稚園

Japanese Kindergarten Singapore



- ① 満2歳～就学前
- ② 9:00～15:00
- ③ S\$480～720(月額、プレイグリーブ、週3日コースもあり)、S\$720(月額、準年少・年少)、S\$650(月額、年中・年長)
- ④ S\$1200、施設拡充費:S\$500(年額)
- ⑤ S\$800(卒園・退園時に返金)
- ⑥ 16名(日本人14名)

MOE(シンガポール教育省)が唯一認可した日本人幼稚園。日本の伝統文化や行事も豊富に取り入れ、日本人による日本語での教育環境の中で、しっかりした母国語や社会性が身につきます。一方で英語のレッスンにも力を入れており、保育室でのレッスン以外にも子ども達が好奇心を高めながら楽しめる活動もあります。広い芝生の庭には汽車や砂場(3カ所)も備えており、園児たちはのびのびと体を動かして遊ぶことができます。味つけや栄養バランスにも配慮した給食も園児や保護者に好評です。

251 West Coast Road Tel: 6779-3434
www.jks.com.sg

Arts Kidz Preschool

アーツキッズ・プリスクール



- ① 1歳半～6歳
- ② 月～金曜 半日 9:00～12:30
全日 9:00～15:30
- ③ 要問い合わせ
- ④ S\$1000(返金あり)
- ⑤ 20人(日本人2名)

※その他、詳細については下記要問合せ、日本語対応可

ティオンバル地区にある幼稚園「アーツ・キッズ」では、専門教師による、絵画・ヨガ・バイオリン・音楽指導(リトミック・ピアノ)を取り入れています。また、保育では、読み書き・計算などができるように導き創造的な学習環境を提供します。第2言語として、日本語・中国語・韓国語のいずれかを選択し、レッスンを受けて頂きます。毎週火曜日の放課後は、アルビレックス新潟のサッカースクールを行っています(希望者のみ)。子ども達の心と体、精神を育成することを約束します。

Eis International Pre-school

イーズ・インターナショナル・プリスクール



- ① 2～6歳
- ② (East) 9:00～15:00
(West) 9:00～15:30
- ③ (East) S\$1050
(West) S\$1100
- ④ S\$100
- ⑤ S\$900
- ⑥ (East) 13名(日本人6名)
(West) 19名(日本人7名)

日本語を母国語とする子どもを対象にした日系幼稚園。園名の「イーズ」は「安心(ease)」を意味し、子どもにも保護者にも安心できる存在でありたいという願いが込められています。英語・日本語を使用。無理なく自然に英語習得を図るイメージ教育法を取り入れたバイリンガル環境の中で、日本人としてのアイデンティティを確立しながら、国際感覚を持つ子どもへの成長を促します。豊かな創造性を養う楽しく充実したカリキュラムは定評あり。障害児の受け入れ体制も整っています。

67A Eu Chin Street, Tiong Bahru Community Centre Level 2
Tel: 6456-8003
www.artskidz.com.sg

【イースト校】7 Seraya Lane Tel: 6348-4780
【ウエスト校】21 West Coast Road Tel: 6777-2911
www.eisintl.com

Arts Junior Montessori

アーツ・ジュニア・モンテッソーリ



- ① 1歳半～6歳
- ② 8:30～15:00
- ③ 全日 S\$950 (月額)
半日 S\$850 (月額)
- ④ S\$500
- ⑤ 保育料 1カ月分 (返金あり)
- ⑥ 13名 (日本人3名)

2009年創立の日系インター幼稚園。マウントフェーバーにあり、自然豊かな環境の中、モンテッソーリプログラムを取り入れた教育が受けられます。園内では英語をメインに、日本語、中国語も学習。各国の文化も熟知した経験豊かな講師陣が揃い、ダンス、合気道、バイオリンレッスンなども盛り込んだオリジナルプログラムで、子どものクリエイティブな感性を十分に引き出してくれます。ウエストエリア、リバーバレー周辺にはスクールバスの運行もあるので通園も便利。

1 Telok Blangah Crescent #02-07 Radin Mas Community Club
Tel: 6272-1332 / 9185-8804 (日本語)
www.artsjuniormontessori.com

Brainy Child Montessori Learning Centre

ブレインリーチャイルド・モンテッソーリ・ラーニングセンター



- ① 1歳半～6歳
- ② 月～金曜 8:00～18:30
土曜 10:00～17:00
- ③ 全日 S\$980 (月額)
半日 S\$620 (月額)
- ④ S\$75
- ⑤ 保育料 1カ月分 (返金あり)
- ⑥ 6名 (日本人2名)

オーチャードプラザ5階にあるローカル系幼稚園。英・中・日の3カ国環境とモンテッソーリプログラムにより、言語、算数、理科、音楽、ドラマ、情操教育、実戦教育などをカバー。子ども1人ひとりにあわせ、経験豊かな教師が総合的なカリキュラムで指導します。1カ月に2回課外授業も実施。希望に応じて午前、午後、週末のみなど選択も可能なほか、体験入学もあります (半日 S\$45、全日 S\$65・ランチ付き・enrichment program)

150 Orchard Road #05-38 to 43 Orchard Plaza
Tel: 9893-1058 (日本語)
www.brainychild.sg

幼稚園

4～6歳が対象。MOE (教育省) の認可のもと、ローカル校入学を前提とする独自の教育プログラムを採用。日本人幼稚園や日系幼稚園もあります。

チャイルドケアセンター

18カ月～6歳を対象にするとところが一般的ですが、乳児保育や学童保育を行う園もあります。独自の幼児教育プログラムと各種情操教育を採用しています。

インターナショナルスクール

2歳～就学前の子どもが対象。多国籍な生徒が多く、英語を基本とした世界共通の教育プログラムを採用しています。各学校によって個性があるのも特長です。

このはな幼稚園

Konohana Kindergarten



- ① 2歳～年長
- ② 8:30～15:00
- ③ 学年により異なる
- ④ S\$100
- ⑤ 保育料 1カ月分 (返金あり)
- ⑥ 140名 (日本人8名)

カトン地区の閑静な住宅街にある日本語と英語のバイリンガル幼稚園。日本で約200の幼稚園が加盟している「総合幼児教育研究会(総幼研)」の右脳開発プログラムと第2言語の習得に有効なイメージン手法による英語教育が特色。シンガポールならではの国際的な環境を生かしながら、日本の文化や伝統行事もカリキュラムに取り入れています。頭と身体を100%使った日常の生活体験の積み重ねの中で、子どもたちの無限の可能性を伸ばし、知・情・体のバランスのとれた人格の育成を目指します。

16 Ramsgate Road Tel: 6342-0100
www.konohana.edu.sg

その他の主な幼稚園

EtonHouse International School & Pre-school

イートンハウス インターナショナルスクール&プレスクール

■イースト・コースト地区

- ・ 51 Broadrick Road Tel: 6346-6922
- ・ 717 Mountbatten Road Tel: 6440-0777
- ・ 718 Mountbatten Road Tel: 6846-3322
- ・ 764 Mountbatten Road Tel: 6440-5100

■オーチャード地区

- ・ 39 Newton Road Tel: 6352-3322
- ・ 2 Orchard Boulevard Tel: 6252-3322
- ・ 15 Claymore Road Tel: 6737-3322

■その他の地区

- ・ 240 Outram Road Tel: 6221-1050
- ・ 1 Vanda Road Tel: 6468 7880

www.etonhouse.com.sg

WinChester Infant House

ウィンチェスター・インファントハウス

318 Tanglin Road
#01-54 Phoenix Park
Tel: 6737-0643
www.wchester.com.sg

Green Pastures Child Center

グリーンパースチャーズ・チャイルドセンター

28 Duke's Road
Tel: 6467-2380

シンガポール日本人学校

シンガポール日本人学校は、当地に在住する日本人児童・生徒の教育を目的に1966年にシンガポール日本人会により設立され、シンガポール政府の認可を受けた私立学校です。日本の文部科学省から認定された在在外教育施設として、日本国内の小・中学校と同等の教育を行っています。

2012年1月現在、クレメンティとチャンギの小学部2校とウェストコーストの中学部の3校合わせて、約1700名の児童・生徒が在籍。施設環境も充実し、日本の文部科学省から派遣の小・中学校教員を含め合計150人が指導にあたり、在外の日本人学校の中でも屈指の規模と教育環境を誇ります。

5つの教育の柱

21世紀に生きる日本人として、「豊かな国際感覚をもち、世界の人々とつながろうとする人材の育成」を目標とし、次の5つを柱とする教育を行っています。

- (1) 「生きる力」を育むための基礎基本の徹底
- (2) 英語教育の重視
- (3) 国際理解教育と現地校交流の推進
- (4) ICT教育の充実
- (5) 家庭・地域との連携

【入学資格】

シンガポールに在住するシンガポール国籍を持たない児童生徒。保護者の所属する日系の企業が、シンガ

ポール日本人会の法人会員であり、保護者が日本人会の会員であること。

【入学条件】

保護者の所属する企業または団体が所定の寄付金を納入していること、もしくは所定の個人寄付金を納入していること。

【編入学手続き】

入学願書（3校のいずれかの事務局で入手、またはホームページからダウンロード）に以下の書類を添えて、各校事務局に提出します。郵送やオンラインの受付はできません。

- (1) 保護者（代表者）の労働許可証のコピー
- (2) 保護者（代表者）の日本人会会員



問合せ先
海外子女教育振興財団
Tel : 03-4330-1349 / 06-6344-4318
www.joes.or.jp

証（または仮会員証）のコピー
(3) 児童・生徒のパスポートのコピー

日本の学校から編入の場合は、前在籍校発行の以下の書類が必要です。

- (1) 在学証明書
- (2) 指導要録（写）
- (3) 健康診断票
- (4) 教科書給与証明書（※）

※編入生は、日本を出国する前に海外子女教育振興財団に「教科書給与証明書」を提出し、海外で使用する教科書を受領する必要があります。日本人学校では受け取れないのでご注意ください。

③給食がない

自宅から弁当を持参するか、指定業者の弁当（S\$6～8程度）を登校時に注文して、昼食時に受け取ります。年中暑い気候のため、水筒の持参も必須です。

②通学はスクールバス

児童・生徒の大半がスクールバスで通学します。小学部は居住地区により、クレメンティ校とチャンギ校の学区が分かれます。バスのルートは生徒・児童数の変動により毎年見直しが行われるので、転居の際は居住地区のバス委員に確認が必要です。

①転校生が多い

保護者の転勤に伴う編入・退学により、毎年約3分の1の児童・生徒が入れ替わります。編入生がスムーズに適應できる環境が整っているので安心です。

④服装は自由

制服はありません。小・中学生らしい、活動しやすい服装ならOK。バスや教室内は冷房が効いていることが多いので、長袖の上着も必需品。上履きの指定ありませんが、体育の授業でも使用できるものがおすすめです。体操服は各校指定のものを、小学部は上下とも、中学部は学年別Tシャツのみ（下は黒か紺のショートパンツやハーフパンツを各自用意）、学校内で購入します。水泳の授業も年間を通してありますが、水着や水泳帽の指定はありません。

なお、中学部では入学式・始業式・終業式・卒業式・合唱コンクールなどに「式服」を着用します。上は白のカッターシャツやブラウス、下は黒・紺を基調としたズボンやスカートという基準に沿った、中学生らしく公式の場にふさわしいものを各自で用意します。

日本の学校とはここが違う！

⑤学用品等も特に指定なし

通学カバン、リコーダーやピアノ等の楽器、水彩絵の具、習字道具、裁縫道具等の指定は特にありません。ノートは小学部のみ、各校の学年で指定のものを使用します。これらの学用品は当地の日系デパートや書店等で購入可能です。編入生は、日本で使用していたものをそのまま使えます。

⑥夏休みも春休みも約1カ月

1学期	4月12日～7月31日
夏季休業日	8月1日～31日
2学期	9月1日～12月23日
冬季休業日	12月24日～1月6日
3学期	1月7日～3月17日
春季休業日	3月18日～4月11日

小学部

小学部の特色

(1) 国際性豊かな子どもを育てる教育

在外日本人学校として、日本国内にある小学校と同等の教育を行います。さらに、シンガポールという特性を生かし、英会話や英語でのイマージョン授業による英語教育にも力を入れ、現地校の児童との交流も積極的に行っています。現地校の子どもたちと日本人学校の子どもがお互いの家庭に泊まるホームステイなども実施しながら、『国際性豊かな子どもを育てる』ための教育に取り組んでいます。

(2) シンガポールをテーマとする総合的な学習

総合的な学習の授業では、シンガポールの自然・文化・人々の暮らしなどを幅広く学びます。学年ごとに学習計画を作成し、現地小学校との交流会を年2回実施するなど、毎年充実した学習内容となっています。また、家庭や地域の人々との連携や、外国人講師による英会話授業などによっても、シンガポールならではの特色ある学習が進められています。

(3) ネイティブ教師によるイマージョン授業

「イマージョン」とは、「没頭」あるいは「浸すこと」という意味。外国語だけの環境の中で、言葉と教科を同時に学ぶという試みです。シンガポール日本人学校では、ネイティブの外国人教師が英語で教科を指導することを指し、クレメンティ校では全学年の水泳、1〜6年生の音楽、チャンギ校では

は1〜4年生の音楽、全学年の水泳でイマージョン授業を実施しています。

(4) レベル別の英会話授業

英会話の授業は、1・2年生で週3〜4時間、3〜6年生で週3時間。学級単位の授業ではなく、初級から上級レベルまで生徒の英語力に応じた10段階以上のクラス編成により、ネイティブの教師がきめ細かな指導を行います。

(5) ICT教育の充実

両校共にコンピューター教室があり、校内はネットワークで結ばれ、ブロードバンドによる高速インターネット環境も。生徒たちは週に1時間、さまざまな教科や総合的な学習で楽しみながらコンピューターを活用しています。

主な年間行事

運動会

両校共に9月中旬から下旬の土曜日に各校のグラウンドで、個人・団体及び全校生徒による競技や、学年別のパフォーマンス、応援合戦などが行われます。

現地校との交流

現地校との交流は学年ごとに行われ、日本人学校に現地校生を招待したり、相手校を訪問して互いの親交を深めています。毎年生徒たちが活動計画を作成し、日本文化の紹介や日本の遊び等、創意工夫をこらした様々な試みが行われています。

ホームステイプログラム

5年生の希望者が、シンガポール人の小学生の家庭に1泊2日のホームステイをし、相手校の生徒も日本人学校生の家庭にホームステイをします。

日本人墓地公園清掃

クレメンティ校は5年生、チャンギ校は5年生が毎年1回、日本人墓地公園清掃を行っています。シンガポールや日本のために貢献した日本人の苦勞や業績を知り、勤勞や奉仕の心を学び、現地理解を深めます。

音楽発表会

クレメンティ校「クレツ子コンサート」(11月中旬)
チャンギ校「音楽発表会」(7月下旬)
歌や器楽合奏などの日頃の練習の成果を発表します

修学旅行 (6年生)

マレーシア2泊3日
(クレメンティ校10月中旬、チャンギ校10月中旬)

チャンギ校



敷地面積：44,100㎡、
校舎3階建 (24,141㎡)

教室数：普通教室41、
特別室55、計96室

主な施設：体育館、道場、25m
プール×2、テニスコートなど

児童数：約650名(22学級)
(2011年度)

11 Upper Changi Road North, Singapore 507657
Tel:6542-9600

クレメンティ校

敷地面積：20,825㎡、
校舎4階建 (12,554㎡)

教室数：普通教室32、
特別室23、計79室

主な施設：体育館、道場、
25mプール、資料館など

児童数：約650名(22学級)
(2011年度)



95 Clementi Road, Singapore 129782
Tel:6775-3366

(1) 少人数学習熟度別学習

生徒一人ひとりを大切に、個々の学習状況に応じた丁寧な指導や支援を受けられるように習熟度別による少人数学習を実施しています。英語の授業では、ネイティブの外国人教師による指導もあり、英語の運用能力の向上に努めています。

(2) イマージョン授業

英語力を育成するために、体育・音楽・美術・家庭の4教科でイマージョン授業を実施しています。英語を主たる言語として教科の指導を行うもので、専任教師が主に指導し、計画の段階や授業では必要に応じて日本人教員が補佐するなど、授業のスムーズな進行と生徒の理解度をサポートします。

(3) 交換プログラム

シンガポール人中学生が同校に通学し、学級交流や特別授業を通して、日本の教育を体験してもらい、同校からも希望者十数名が現地校でシンガポール人の中学生と一緒に授業を受けます。同年代の現地校の生徒との交流を通して、相互理解の促進を図る、当地ならではのプログラムとして、2012年度で29年目を迎えます。

(4) コンピューター教育

専用教室で、各教科・領域の授業に添って、文書作成や、個人の研究発表、作品製作などにコンピューターを使用するほか、インターネットの活用方法などの指導が行われます。

(5) 進路学習講演会・職業体験

全校生徒が、さまざまな職業に携わる人々の話を聞く「進路学習講演会」を毎年1回開催しています。さらに、2年生全員が数人ずつのグループに別れ、シンガポール国内にある日系企業の事業所で、1日職業体験を実施しています。

(6) 部活動

運動部…サッカー、野球、バスケットボール、バレーボール、テニス、卓球、陸上、バドミントン
文化部…吹奏楽、軽音楽、美術、ダンスなど
毎週2〜3回、火・水・木曜の放課後に活動を行います。帰宅時は通常のスクールバスに代わり、MRTクレメンティ駅までのバスが運行されます。

(7) 卒業後の進路

文部科学省による在外教育施設としての認定を受けているため、中学部の卒業生は日本の高校への進学条件を満たしています。卒業後は半数以上が日本の高校へ進学。その他の生徒は早稲田渋谷シンガポール校が多く、毎年数名がインターナショナルスクールに進学します。

※情報はすべて2012年
1月現在のものです。

シンガポール日本人学校
Tel:6775-3366 www.sjs.edu.sg

主な年間行事

合唱コンクール

北部ウッドランドのリパブリック・ポリテクニク内のコンサートホールを会場に、各クラスの日ごろの練習の成果を披露します。クラス合唱と学年合唱の2部構成で、学年ごとに金賞・銀賞各1クラスが選ばれます。

体育大会

体育委員を中心とした生徒会が主体となって、計画・運営を行います。学校近くのAR-JASグラウンドを会場に、短・中距離走、走り高跳び・幅跳びなど個人種目や、リレー、綱引き、大縄飛びなどの団体種目で得点を競います。

百人一首大会

1・2年生全員参加の学級対抗戦。生徒が中心となって練習を進め、本番に臨みます。

日本人墓地公園清掃

日本人墓地を全校生徒で清掃することで、日本とシンガポールの過去の歴史への理解と認識を深めます。

修学旅行(2年生)

行き先：タイ(チェンマイ) 2泊3日(2011年度)

日本人学校の学費・諸費用

入学金	SS\$1,070 ~ SS\$3,852 (保護者の勤務先が日本人会の法人会員か否かによる)
施設費 一時金	SS\$2,675 (小学部から中学部への進学時にも納入)
授業料	小学部 SS\$502.90 / 月 中学部 SS\$577.80 / 月
施設費	SS\$139.10 / 月 (小・中学部とも一律)
PTA会費	クレメンティ校・中学部 SS\$30 / 年、 チャンギ校 SS\$40 / 年
通学バス	通学バスを運営する日本人学校協同組合への入会が必要
入会金	SS\$10.70 出資金 SS\$100 (共に1家族あたり)
利用料	SS\$155.15 / 月 (生徒1人あたり)

中学部施設概要

敷地面積：17,014 m²、
校舎4階建(10,689 m²)

教室数：普通教室27、
特別室25、計52室

主な施設：体育館、道場、
25mプール、テニスコートなど

児童数：約440名(12学級)
(2011年度)



201 West Coast Road, Singapore 127383
Tel:6779-7355

早稲田渋谷シンガポール校

シンガポール及び近隣諸国に在住する邦人の子弟を対象に、アジア地区で初の全日制日本人高校として1991年に開校した『渋谷幕張シンガポール校』を前身とし、2002年に早稲田大学の系属校となったことから、校名を『早稲田渋谷シンガポール校』に変更。保護者がシンガポール国外に在住する生徒のための学生寮も完備しており、在外教育機関ならではの異文化交流プログラムや、優れた英語教育カリキュラムも魅力です。

独自の教育プログラム

日本の文部科学省が定めた学習指導要領に準拠し、主要教科は習熟度別のグループで丁寧な指導。生徒の希望進路に合わせて、2年次からは理数系・文理総合・外国語特修の3つのコースに分かれた複線型カリキュラムとなり、2・3年次では幅広い科目を選択肢を提供。現地校との交流プログラムをはじめ、異文化への理解を深めるさまざまな教育プログラムを行っています。

部活動

部活動は生徒の8割以上が参加。運動部・文化部ともに活発に活動しており、現地校や国際校との交流もさかんです。

【運動系】サッカー、硬式テニス、バスケットボール、バレーボール、陸上競技、剣道、卓球、水泳、ソフトボール、アルティメット、ダンスなど

【文化系】自然研究、軽音楽、吹奏楽、茶道など。その他、空手、美術、クッキングなどの同好会

チュートリアル・イングリッシュ

英語のオーラルコミュニケーションの授業では、「議論のできる英語」の習得を目的に早稲田大学で開発された、チュートリアル方式を採用。生徒4人にネイティブ教員1名の少人数制で、英語による総合的なコミュニケーション能力の向上を目指します。

高い進学実績

卒業生は系属校の早稲田大学をはじめ、日本国内全域の国立及び私立大学に進学しています。早稲田大学への推薦枠は43名(2011年度)。このほか関西学院(15)、立命館(6)、同志社(1)、南山(2)、明治(2)、法政(5)、関西大(3)、中央(2)など、90名以上の指定校推薦枠があり、東京六大学と関関同立だけでも75名。また、東京大、京都大、東工大、大阪大、北大、東北大、山梨大(医)、徳島大(医)など、国立公立大学にも多数の合格者を出しています。

入学試験

日程：12月と2月の第一土曜日
試験科目：国語・英語（リスニングを含む）・数学（各100点満点）の計300点満点
募集定員：90名
※年度途中の編入試験は随時実施。日本国籍を持たない生徒の入学も可能。ただし、日本語による授業が理解できることが前提

学費（2012年度）

入学金：\$5,500 (GST別)
授業料：年額\$19,874 (GST別)
※分納可
施設費：年額\$3,000 (GST別)
教材費：\$2,000 入学時に納入
寮費：年額約\$15,000 (GST込み)
3食・光熱費込み
※新年度の第1回試験で特に優秀な成績をおさめた生徒（5名以内）の授業料が免除される「大隈特別奨学金」もあります

施設概要

57 West Coast Road Singapore 127366
敷地面積：19,800 m²
校舎等延面積：約12,000 m²
普通教室 9室、講義室 5室、セミナー室 8室ほか5室、教育情報センター（図書室、コンピュータ室、学習室）、学生ホール（食堂など）、体育館、柔剣道場、グラウンド（全面芝生）、25mプール、テニスコートなど
学生寮：定員男子寮116名、女子寮71名（全室個室）
在籍生徒数：約310名（9学級）（2011年）

情報提供
早稲田大学系属 早稲田渋谷シンガポール校
Tel:6771-8118 www.waseda-shibuya.edu.sg

シンガポール日本語補習授業校

手作りの教室から大規模補習校へ

現地校や国際校に通う子どもたちに日本語や日本文化を学ぶ機会を、という母親たちによる手作りの補習教室として1992年にスタート。1994年に日本政府の認可を受けた『シンガポール日本語補習授業校』となり、1995年より日本人学校クレメンティ校の一部を校舎として借り受けることになり、1996年にシンガポール教育省から正規の学校として認定されました。2006年からは文部科学省から校長が派遣されるようになり、教育内容も充実した大規模補習授業校へと発展しています。

授業の概要

前期（4～9月）と（後期10～3月）の2学期制。毎週土曜日の午後（13時25分～16時25分）に3時間の授業を行っています。国語と社会（小3以上の関連教科として）の2教科のほかに、季節ごとの日本の行事を通して、学校文化を学ぶ授業もあります。

カリキュラムの特徴

【国語科】全学年、家庭での言語環境や将来の進学予定等を考慮した目的別（Aコース・Bコース）の学級編成のもとで、文部科学省学習指導要領に準じた授業を行います。Aコースは日本へ帰国する予定のない子どもたちを対象に小学校の教育課程を中心とした国語学習を行い、Bコースは将来日本に帰国して教育を受ける子どもたち（またはそれに準じた子どもたち）を対象に日本と同様の国語学習を行います。

【日本語科】外国語としての日本語を基礎から学びます。（現在は募集なし）

入学資格

日本国籍を持ち、日本の学齢で小学校1年生から中学校3年生に相当する国際校または現地校に通う児童生徒。各学年学級とも年度ごとに定員があり。編入生の場合は、面接審査も実施しています。

情報提供
シンガポール日本語補習授業校
Tel:6777-5560 www.jss.edu.sg

学費

入学金：日本人会会員\$5150
日本人会非会員\$300
授業料：小学部 \$5 175/月
中学部 \$5 185/月
※教材費を含む

施設概要

95 Clementi Road
Singapore 129782
（日本人学校小学部クレメンティ校内）
在籍児童・生徒数：約240名（2011年度）

インターナショナルスクールの 学習と進路

インター校生の メリットとデメリット

他の国々における傾向と同様に、近年シンガポールにおいても、お子さんの教育環境としてインターナショナルスクールを選ぶ家庭が増えています。「英語のコミュニケーション能力が身につく」「異文化に触れる機会が多い」「個性を尊重した授業が豊富」といったメリットがありますが、最大のメリットは「日本以外の大学も含む」受験の選択の幅が広がる」という点ではないでしょうか。諸外国の大学まで視野に入れることができるだけでなく、日本でも大学の「AO入試」をはじめ、さまざまな学校で帰国生に対応した受験方法を探っているため、学習の仕方によっては通常以上に有利な受験が可能です。

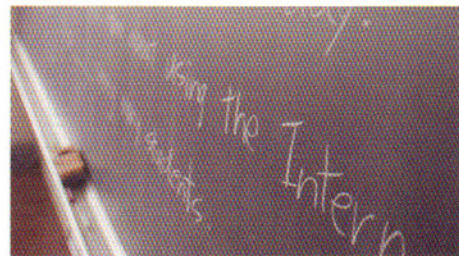
ただし、良いことばかりでなく「敬語が上手に使えない」「日本式のマナーがわからない」といった文化的なギャップが生まれてしまったり、たとえば学校のカリキュラムの中に「日本語」の授業があったとしても、総合的に日本語に触れる機会は少なくなり、各校によって差はありますが、一般に、日本人学校よりも多い宿題量をこなしながら、日本語の学習をコンスタントに維持することは、決して容易ではありません。しかし「日本人の子女」としては、いずれ必要となる「SAT」「IGSE」といったテストで「日本語を第2言語として選択できるか否か」は、受験を有利に進める上で重要な要素となります。決して途中で日本語力の維持・向上を諦めてしまうことなく、効果的な学習方法を選んで、コンスタントに学習を続けていく必要があるでしょう。

また、日本語のクラスがあるインター校でも、授業は「国語」ではなく「日本語」のため、いわゆる「学校文法」ではなく、よりファンクショナルな「日本語文法」です。漢字も「学年相当」という概念だけでなく、日常で使用する頻度に応じて学ぶというのが一般的です。家庭では、こうした学校での日本語学習と大きく矛盾しないようなフォローアップすることが重要となります。日本の教育を受けて育った保護者にとっては、「〇年生なのに、こんなことも知らなくて大丈夫だろうか?」といった不安を感じる場合もあるかもしれません。こうした場合には、インター校生の教育に詳しい学習塾などへ質問してみるのも良いでしょう。

国語（日本語）についてだけでなく、Math（算数・数学）についても、日本の「算数・数学」とは進行カリキュラムが大きく異なります。この2教科については、お子さんが「日本の学齢で言うと、今何年生の何学期に相当するか?」という基準を持ち続けることをお勧めします。方法としては、市販の「〇年生」という表記のある教材の他に、学習塾で行われる学力テストを利用する方法もあるでしょう。

各学年における留意点について

G1～2	両親ともに日本人の場合なら、家庭内での会話量がお子さんの言語発育に大きく影響します。「今日は何を勉強したの?」と日本語で説明させてあげる、といった積極的な語りかけをすることで、順調に日本語力の発達を助けてあげることができます。
G3～4	自然の流れとして、お子さんの言語生活の中で「友達との会話」のウェイトが上がってきます。そのような中で「前と同じように語りかけても、子どもが面倒がって会話にならない」といった悩みをお持ちの方が多いようです。このタイミングには、「日本語に触れる機会を定期的につけてあげること」が重要となってきます。より短い時間で効果的な方法を選びましょう。
G5～6	お子さんの学習科目の中で、日本語をどのように位置づけるかを決断しなければなりません。第1言語（母語）とするか第2言語とするか、第2言語とするなら、どこまでを目標とするか、明瞭なイメージを持っておく必要があります。第2言語に位置づけたとしても、2～3力国語を自由に使いこなす同級生に囲まれているわけですから、「英語優先だから、この程度でも」といった学習では、成績が思うようにキープできないケースもあるようです。目安としては、「将来、日本の大学に行かせたい」なら第1言語、「海外の大学進学」なら第2言語、とするのが良いでしょう。
G7～9	このくらいの学年になると、その内容は「文学作品について分析し、発表する」などのように、日本の一般的な中学生では難しいような、かえって難度の高いものになってきます。ご家庭と一緒に考えてあげるのが難しいようであれば、塾などの専門家に依頼して学習のサポートをする必要もあるでしょう。



ここまで、国語（日本語）とMath（算数・数学）について述べてきましたが、他にインターナショナルスクールに通うことで学習内容の不足が生じる可能性の高いものとして、「社会の学習（特に歴史）」や「理科系科目の用語」などもあります。いずれの科目についても、「メリットを伸長」し、「デメリットを少なくする」という観点でのフォローアップを行うことで、インターナショナルスクールに通うことの「良さ」が大きく変わることとなります。選んだ学校にピッタリ合った学習方法を探ることをお勧めします。

インターナショナルスクール・ガイド

Canadian International School, Singapore

カナディアン・インターナショナルスクール



質の高い教育プログラムに定評ある、幼稚園から高校までのインター校。世界中から集まった園児・生徒1人ひとりが言葉や文化の違いを認め、お互いを尊重しながら学べる環境が整っています。幼・小学部ではIB PYPを採用し、感受性・好奇心・責任感などを育み、楽しみながら幅広い知識が身につきます。保護者とのコミュニケーションを重視し、より良い指導や環境作りに努めています。課外活動など特別プログラムも充実。

371 Tanjong Katong Road 7 Jurong West Street 41
Tel: 6345-1573 Tel: 6467-1732

E-mail: admissionstk@cis.edu.sg
<http://www.cis.edu.sg>

EtonHouse International School

イートンハウス・インターナショナルスクール



シンガポールをベースにアジア8カ国で幼稚園とインター校を運営しており、54カ国から集まった約5000人の生徒が通っています。シンガポールには幼稚園とインター校があり、うち3校はIB、PYPの正規認定校。国際性豊かな環境のもとで、勉強だけでなく多方面から生徒の感性を伸ばす教育法を採用。ヒンディ、日本語など第二言語の特別プログラムにも力を入れています。2012年4月には新たなキャンパスもオープン予定。

51 Broadrick Road
Tel: 6346-6922
www.etonhouse.com.sg

Nexus International School

ネクサスインターナショナルスクール



2007年に開校し、未来の国際的リーダーを育てる教育方針が自慢のインター校。世界の最高基準に基づいたバランスのよいカリキュラムを採用し、優秀な講師陣がしっかりと指導してくれます。キャンパス内には、スイミングプールやジム、サイエンス、コンピューター実習室などもあり、アートやスポーツ面のプログラムも揃っています。カウンシルオブインターナショナルスクールの会員であり、IB、PYP、DPの認定校です。

201 Ulu Pandan Road
Tel: 6536-6566
www.nexus.edu.sg

Stamford American International School

スタンフォードアメリカンインターナショナルスクール



アメリカの教育水準としても採用されている国際教育レベルのIB（国際バカロレア初等教育プログラム）をもとに、ベストな教育法で指導。毎日中国語とスペイン語のレッスンを実施しているほか、ネットブックやiPadプログラムもあり、最新テクノロジーを学ぶこともできます。少人数制を採用し、それぞれの目標達成に向けて丁寧な教育を心がけています。2012年8月にはMRT Woodleigh駅近くに新校舎をオープンする予定。

11 Lorong Chuan
Tel: 6602 7247
www.sais.edu.sg

構造的就職難と、グローバルな人材の争奪戦の激化

ここ2〜3年、日本の一流大学を卒業して30〜40社に応募しても、1社も内定が出ない学生が続出して

います。未曾有(みぞう)の就職難の時代です。しかしその一方で、海外の大学を卒業した学生のようにグローバル化時代に対応する力を備えた学生には、複数の会社から内定が出るという状況も明らかになっています。

収縮する国内市場と、拡大する新興国市場

日本は高齢化が急速に進むだけでなく、2005年を境に人口が減少局面に転じました。1億2700万人をピークに、2040年頃には1億人を切るという統計が発表されています。これは国内市場がほとんど縮小していくことを意味します。(GDPが30〜35%程度低下すると予想されています)

反対に、アジア・中東・アフリカ諸国の新興国市場は近年大幅に拡大しています。耐久消費財を購入できる

就職に有利となる海外大学への進学

従来、海外の大学の卒業生には、外資系や一部の企業を除いて日本での就職には不利、というイメージがありました。国内の有名大学の卒業生の就職率と比較した結果、海外への進学を躊躇するという傾向も見られました。ところが、これまで述べたような状況の変化により、就職率の逆転現象が進行しています。なぜなら従来型の日本語だけで授業をし、学生が殆ど日本人といった日本の大学の優位性が急速に失われているからです。海外の大学進学への条件を備えたシンガポール在住のインター校生にとっては、まさにチャンス到来です。

海外の大学に進学するには

海外の大学の選考には、日本のような入学試験がありません。基本的には、在学している学校の履修科目・成績と英語力(英語が教授言語の場合)が選考材料となります。シンガポールには国際バカロレア(IB)、アメリカ系、カナダ系、オーストラリア系等、様々なカリキュラムを採用したインター校がありますが、近年多くのインター校で海外の大学へ有利な国際バカロレア(IB)ディプロマプログラムを採用する学校が増えました。(23校中17校)

進学する上で共通する留意点は次の通りです。

①専攻コース(やりたいこと)を早めに想定する

できればG11の履修決定前に専攻コースを想定してください。選択する科目によっては専攻コースに応募できなくなる可能性もあります。

一時代前には「国内有名大学を卒業して上場企業に就職しよう」というのが定番メニューでしたが、格の高い企業へ就社することから「自らの強みを活かす仕事に就く」文字通りの就職へ転換が急速に進んでいます。このような時代には、グローバルに通用する「自らの明確な強み」を作ることが重要です。「強み」は一つではなく、2つ以上あることが望ましいでしょう。例えば、英語が堪能でマネジメントのわかるエンジニア、英語とほかの外国語ができるビジネスマン、インター校の数学・理科の教員、等々です。また、強い専門性が求められる時代には、大学卒では足りない業種も多くなっています。既に理系専門職は修士課程修了が応募の最低条件となっており、海外でも公認会計士、弁護士、医者等は全て修士課程修了が資格認定条件となっています。また、多くの国際機関への就職は、英語で修士課程修了以上で、母語以外に少なくとももうひとつ使えるのが条件となっています。

②成績評定平均「GPA」をできる限り高くする

海外大学の一般的な評価項目として、学校の成績評定平均「GPA (Grand Point Average)」があります。

GPAのスコアと英語力で選考の70〜80%が決まります。レベルの高い科目で高いスコアを獲得するよう頑張りたいものです。

③履修科目に留意する

多くの大学が専攻コースごとに履修前提科目(Prerequisite)を設定しているため、遅くともG11から、できればG10からは大学での専攻コースを踏まえた科目選択をするように注意しましょう。上位大学を目指す場合は、大学1年相当レベルの科目(1BのHigher Level、アメリカ系のAP/Advanced Placement)を可能な限り履修し、高いスコアを目指します。また、数学が重要科目であることも認識しておいてください。海外大学では、文系コースでも数学の成績が重視されるので、G12まで手を抜かないで学習してください。

④国際的な英語検定試験を受験する

大学での授業についていける英語力があるかどうかを判定するため、多くの大学で英語検定試験の受験が課されています。TOEFL、IELTSが一般的で、日本の英検はほとんど認められていません。またTOEICはもともとビジネスコミュニケーションに必要な力を見ることを目的に作られた試験なのでこれも殆ど認知されていません。G12では最終学年の試験準備に追われるので、G11の終了時、遅くともG12前期中に目標スコアを取得することが望ましいでしょう。

帰国受験

中学受験

シンガポール生活を経て、日本で受験をする場合、帰国校を利用できるというメリットがある一方で、日ごろから受験を意識した学習や、受験に関する最新の情報を把握するように心がけておく必要があります。ここでは、中学・高校・大学それぞれの受験に備えた心構えや学習のポイントなどを紹介します。

シンガポールでも、非常に多くの小学生が中学受験に備えた勉強をしています。最近では、難解な入試問題を突破するために塾の授業を受講する以外に、インターナショナルスクールに通う生徒が帰国子女向けの算数国語コースを受講する機会も増えてきました。こうした学習環境は日本以上に充実しており、実際に毎年多くの合格者が、一般校受験・帰国校受験を問わず、シンガポールから輩出されています。

■代表的な中学受験

① 一般受験型

国語・算数・理科・社会の4科目
関西圏は国算理の3科目が多い
よる標準的な受験。日本と変わら

ない準備が必要ですが、ほとんどの中学を受験できるため学校の選択肢は豊富です。

② 学力検査ありの帰国校受験型

国語・算数の2科目（または英語を含めた3科目）による帰国校受験。入試問題の難易度が下がるなど、ほとんどの場合が一般校と比べて有利な制度です。ただし、受験できる学校の選択肢は限られます。

③ 学力検査なしの帰国校受験型

作文や面接（いずれも日本語または英語）のみによる受験。②と同様に帰国校受験扱いですが、実際に入学してから授業についていくための学力が必要のため、受験できる学校はかなり減ってきました。

算 数

現在の小学校の学習内容、あるいは参考書などの独学で、中学受験レベルの学力に達することは、現実的にはほとんど不可能といえるでしょう。塾での授業に集中し、それを鍛錬するための家庭学習をするという二つの車輪が回るようになって初めて理解が深まり、得点力が上がっていきます。

帰国校受験の場合、中学受験の基礎レベル（学校の教科書レベルでは太刀打ちできません）の問題であることが多いので、平易な問題でいかに手堅く得点できるかが勝負ですが、複雑な計算を処理する力を習得するにはかなりの時間を要します。日頃の計算練習は欠かせません。

国 語

国語では、豊富な語彙力を身につけた上で文章を理解し表現する能力が問われます。中学入試で主に扱われる「説明文・論説文」、「物語・小説」、「随筆文」など、様々な種類の文章に触れる機会が多いほどよいでしょう。また、ほとんどの学校で50字から100字程度の記述問題が出題されるので、「要点をまとめる力」や「心情を説明する力」をつける学習は作文問題の有無とは関係なく必須です。

帰国校限定の問題は、一般入試の問題よりも比較的易しいと言われています。ただし、これは中学受験の基礎的な勉強をした上でのご話で、「漢字」、「知識」、「作文」は継続的な学習を行うことが必要になります。

社 会

毎年話題になったテーマを切り口として、地理、歴史、政治分野の総合問題を出题する学校が多いです。必然的に学習量は多いので、直前で他の教科の妨げとならないよう計画的な学習をすることが必要です。特に「日本地理」の学習内容は、シンガポールに在住していることでなじみが非常に薄くなるため、早めに取り組んでおいたほうがよいでしょう。

理 科

社会と同様、理科の勉強はおろそかになりがちですが、実は要求される知識レベルが非常に高い科目です。オームの法則や、イオンの概念まで必要とされるからです。さらに、シンガポールで生活していると、春夏秋冬の動植物や天体の動きなど、日本で暮らしていれば当然知っているはずの知識も不足しがちなので、普段から各種図鑑などを活用し、知識を蓄えておく必要があります。

英 語

帰国校受験の場合、日本人学校出身でも受験できる英検3級程度の出題をする学校から、現地校生や国際校生のみ出願可能な英検準1級レベルの学校まで様々ですが、総じて問題の難易度は上がりつつあります。欧米からの帰国生も応募する中で、英語を武器に受験をするという場合には、小6の1学期までに実用英語技能検定2級相当は必ず取得しておきましょう。

★学力検査なしの帰国校受験の場合

作文と面接のみの入試だからといって、教科の勉強を疎かにすると入学後に取り残されてしまうおそれがあります。一般入試を突破した生徒と机を並べて勉強するのですから、「中学受験で問われる基本的知識は備わっている」ことを前提として授業が進むことは覚悟しておかなくてはなりません。作文のテーマはほとんどの場合「海外生活で学んだこと」や「滞在国の文化」に関することです。面接は滞在国や家族や学校などの身近なことを聞かれることが多いので、何を感じ、どんなことを学んだかについて事前に考えをまとめておきましょう。また面接室への入退場の姿勢・挨拶の仕方などの基本的な動作が身につけていない人は繰り返し練習をする必要があります。入念に準備を進めておきましょう。

早稲田アカデミー シンガポール校

Tel:6734-1969 (オーチャード校) <http://waseaca-singapore.com/>

Tel:6469-1204 (ウェスト校) <http://waseacawest.web.fc2.com/>

全国的に公立高校の再編成が進み、新設される高校は従来型の学年制の普通科以外に、単位制や総合学科など、特色のある学校が増えています。さらに、私立校でよくある「特進コース」などが公立高校にも誕生しはじめ、入試の段階から各コースごとに募集をする高校も出現しはじめました。

私立高校では、難関校を除いて、内部進学率が高い附属校の志願者が減少傾向にあり、他の大学の受験へとシフトしている附属校では志願者が増えつつあります。このように、高校受験においては毎年のように何らかの変化があるので、正確な情報収集を行うことが必要です。

帰国生の高校受験

帰国生の受験は、「帰国枠」と「一般枠」の2つのタイプに分けられます。現在多くの高校で帰国枠入試を実施していますが、選考方法別に分類すると、

- ①海外での成績を重視する
- ②英語などの小論文、面接を行う
- ③帰国生用の学力試験を用いる
- ④一般入試と同一の試験を行い、選考基準で優遇する

①と②のタイプの学校を受験する場合は、高い英語力が求められます。帰国生が英語力を強みとして受験するには、日本人学校の生徒は英検2級以上、インターナショナルスクールの生徒はTOEFL iBT79 (PBT550) 点以上を目指しましょう。もちろん英語力だけではなく、学習塾等で入試レベルの学力を補っ

ておく必要があります。

日本人学校の生徒の受験は、③と④のタイプが中心となります。面接等でアピールできる「自分の強み」を作っておくことも大切です。

一般的に、「帰国枠のある学校は帰国枠で出願したほうが有利」といわれていますが、帰国生だからといって入学後の授業についていけないければ、学校側もやはり受け入れが難しいと判断します。一般の受験生とそれほど変わらないレベルの学力は必要、と考えておいたほうがいいでしょう。

出願資格について

帰国生の出願資格については

- ① 海外生活の年数
 - ② 帰国後の年数
 - ③ 受験資格の認定
- がポイントになります。

①と②については、一般的には「海外で2年以上・帰国後1年程度」ですが、学校ごとに規程が異なり、近年の傾向としては、全体的に緩やかになりつつあります。志望校の出願規程に該当するかどうか微妙な年数である場合は、その学校の帰国生入試担当者に直接確認する必要があります。

③については、学校側が志願者の願書を受け取る前に、書類や面接によって資格審査をする必要があることを意味します。公立校の基本条件は「中学もしくはこれに準ずる学校を卒業した者、または卒業見込みの者」あるいは「外国において、学校教育における9年の課程を修了した者」となっています。①は「海外在住2年以上」、②は「帰国後2年未満」とする学校が大半ですが、③については資格認定を必要とする場合や、指定された説明会の会場への参加を義務付ける学校までさまざま、都道府県によっても細かい違いがあります。定員や試験日等は毎年のように変わるため、注意が必要です。

高校受験の準備

帰国生の高校入試は、日本国内の入試よりも早くスタートします。国内では1月下旬の私立入試から本格的に始まりますが、シンガポールで受験可能な「海外入試」は、例年10月から12月初めにかけて実施されます。当地の早稲田渋谷シンガポール校の入試も例年12月の初めに行われます。私立高校の受験を考えるのなら、遅くとも中学3年の1学期までに中学での学習範囲を終了し、夏休み以降は入試問題にチャレンジできるように学習を進めておきましょう。

首都圏の私立高校の一般入試や帰国枠入試では、国語、数学、英語の3教科の学科試験を課されるケースが多いので、3教科の学力を十分につけておくことが、受験校の選択肢を広げる重要なポイントとなります。公立高校も帰国枠入試を実施している都道府県では3教科で受験が可能ですが、首都圏以外では全く実施していない都道府県もあります。関西の私立校の一般入試においても、社会、理科を加えた5教科で一般入試を行う学校が多いため、帰国先によっては5教科の受験勉強を視野に入れる必要があります。

シンガポールで受験できる私立高校

シンガポールで学校説明会や入試を行う高校は年々増えています。2011年には当地の早稲田渋谷シンガポール校の他にも、明徳義塾、オイスカ、駿台甲府、茗溪学園、関西学院千里国際、立命館宇治、同志社国際、啓明学院、郁文館の入試と、日本大学の全付属高校の統一入試が実施されました。これらの学校は帰国生の受け入れに熱心で、寮のある学校や、充実した国際コースを持つ学校、中には公立高校の入試結果が出る3月まで入学手続きを待ってくれる学校もあります。例年5～7月頃に開催される説明会に積極的に参加し、シンガポールで受験できるメリットを有効に活用しましょう。

シンガポールから日本の大学へ進学を希望する場合、在籍する学校によって、受験の準備や心構えは全く異なります。

早稲田渋谷生生の大学受験

早稲田渋谷シンガポール校に在籍する生徒の、大学受験をする場合は、次の2パターンがあります。

① 推薦資格を辞退して一般受験をする

毎年、早稲田大学への推薦資格を辞退して、一般受験を目指す生徒がある程度います。国立大学への進学を希望したり、早稲田大学に希望の学部がないことが理由に挙げられます。早稲田大学への推薦枠や、他大学への指定校枠のほとんどは文系学部なので、理系学部の内部推薦はきわめて厳しい競争になります。そのため、理系の生徒は、初めから外部受験に照準を合わせて勉強をする場合が多くなります。

OR

② 推薦の獲得が難しいため、他の大学を受験

学年順位が高くない場合、早稲田大学の希望学部への推薦や指定校推薦が期待できない生徒は、他の大学を受験することになります。入試の形態としては、一般受験の他、AO入試や一部の大学で行われる帰国枠入試があります。

上記2つのパターンに該当しない場合、つまり早稲田大学への進学を希望し、学年順位が安全圏にあっても、「大学受験に向けた学習」は必要になります。早稲田大学推薦・指定校推薦のポイントに加算されるのは、実力考査と模擬試験、そして定期考査です。なかでも実力考査と模擬試験の比重が大きく、どちらも高校の授業内容以上のレベルが要求されます。このため、直前の対策では太刀打ちできません。したがって、日ごろから大学受験に向けた勉強をしておくことは、十分意味があります。

インター校生の帰国受験

日本へ帰国して大学受験をする場合に必要なものとして、主に次のようなものが挙げられます。

① TOEFL iBT

iBTではまず80点を超えることを目標に勉強するといでしょう。80点を超えてからSATの勉強を始めましょう。iBTで80点を超えないと、SATの英語のレベルに手が出せません。また、iBTの勉強で忙しくしても、iBTのスコアはG11の間に自己最高点を獲得しておきましょう。G12の6月前後は、TOEFLの試験を受けようと思っても予約でいっぱい、3カ月前まで待たなければならぬ場合もあります。

② SATのスコア

SATはReasoning testとSubject testからなり、前者はCritical Reading・Writing・Math各800点満点、合計2400点満点となっています。Subject testまで求められるのは慶應義塾など一部の大学に限られます。Reasoning testの英語が日本人にはかなり手こわい一方、Mathは日本の数学を勉強してきた生徒にとっては得点源となり得るレベルです。SATはアメリカの統一試験なのでiBTを勉強しているインター校生には本来必要ですが、iBTのスコアが万一本振るわなかった場合に備えて、並行してSATも受けておくという生徒は少なくありません。

③ IBのスコア

シンガポールのインターナショナルスクールでは、IB(インターナショナル・バカロレア)を取り入れている学校が多くあります。IBはG11から始まる2年間の学習プログラムで、日本人の生徒にとってはかなりの負担になるので、どうしてもIB中心の学生生活になります。しかし、IBのスコアは最後

までわからないので、スコアが予測より低かった場合、希望学部の受験資格を満たさなかったり、書類選考で合格水準に達しないという事態になることもあります。そこで、どんなにiBTの勉強が大変でも、長期の休みなどを上手く使ってTOEFL(一部の大学を受ける場合にはSATも)を受けておきましょう。

④ 小論文

ほとんどの学部で必要となります。文章の上手さよりも内容の充実度が評価されるので、日ごろから現代社会が抱える問題や時事問題に意識的に接するように心がけ、自分なりの考えをまとめておきたいものです。

⑤ 志望理由書

筑波大学などの面接を重視する大学では、表面的な面接準備では到底太刀打ちできません。事前に書面で自分の考えをまとめておく必要があります。面接では志望理由書を元に質問されることが多いので、そのことを念頭においてじっくり準備しておきましょう。

⑥ 数学・化学などの学科試験

理系学部には数学や化学などの学科試験があることが多く、その場合は日本の一般受験生と同様の勉強が必要となります。数学は主に高1・2の範囲から出題されます。なお、理系学部の小論文は、実質的には小論文形式の化学の問題であることも多いので、募集要項で小論文のみとなっている、実際には化学など理系科目の勉強が必要な場合が多いのが現状です。

⑦ 国語・英語などの学科試験

早稲田大学などでは、国語・英語などの学科試験が課されます。国語は現代文なので、それなりの準備が必要です。また、英語は日本の学生が学ぶ文法中心の英語なので、英語は大丈夫だと高をくくっていると大変なことになります。

受験への取り組み方

早稲田渋谷生もインター校生も、シンガポールで生活していると、日本で受験するという実感がわきにくく、いつ何をしたらいいのかわからずになんとなく時を過ごしてしまう、という危険性があります。そこで、何らかの「ベースメーカ」を見つける必要があります。早稲田渋谷生ならシンガポール国内の学習塾で模擬試験を受けたり、日本の予備校で季節講習を受けるなどして、日本の受験生の雰囲気や日本での自分の学力の位置づけを把握しておきたいものです。インター生も学校の日々の宿題・課題に追われ、なかなか受験のための勉強に時間を割けません。長期休みのときにはTOEFL・SATの勉強・受験をするべきでしょう。卒業間近になってスコアが足りない、とあわてるような状況は避けたいものです。

また、早稲田渋谷生・インター校生に共通して言えることとして、小論文は必ずだれかに添削してもらうようにしましょう。自分で小論文を書いているだけでは表面的な知識の羅列に終始してしまいます。どんな生徒もそこからスタートして、徐々に深いのある本質的な内容を論じるようになることを目指すので、どのようなポイントが評価されるのかを熟知している専門家の手を借りたほうが、文章力アップの近道であることは間違いないでしょう。

学習塾ガイド

ここでは、日々の学校での勉強のサポートや受験に役立つ、シンガポールの塾を紹介します。

オービット・アカデミックセンター

1990年より海外在住生の多様な学習歴に対応した教育を実践し、中学・高校・大学受験で高い進学実績を誇ります。小学部のコースは、目的別に基礎学力育成・帰国校受験対応・難関校受験対応と分かれ、各種の英語講座も充実。中学部では科目別に習熟度別のクラス編成を行い、苦手部分を集中的に強化。日能研・SAPIX 中学部といった提携塾とのネットワークを活かして進学に必要な情報をタイムリーに提供し、突然の帰国にも対応できる体制を整えています。IBカリキュラムに対応した数学クラスも展開中です。



対象学年 / 小3～高3
休校日 / 直接教室に
お問合せください

9 Penang Road, #08-06 Park Mall
Tel: 6738-3043
E-mail: oac@orbit.edu.sg
www.orbit.com.hk

駿台 シンガポール校

シンガポールをはじめバンコク、香港、上海など海外7校舎のネットワークと豊富な受験データをもとに的確な受験指導を行います。在籍生は、難関校受験において正確な可否判定が出る駿台模試も受けられます。また、駿台予備学校・駿台国際教育センターとの交流も盛んで、予備学校校長による教育講演会、国際教育センター長による帰国大学進学講演会などのセミナーも定期的に開催しています。



対象学年 / 小2～高3
休校日 / なし

No.1 Grange Road, #13-01 Orchard Building
Tel: 6235-2221
E-mail: Singapore@sundai-kaigai.jp
www.sundai-kaigai.jp

海外子女教育 WAO シンガポール

目的別・個人別・学校別に学べる「1対2個別指導コース」を設置。集合塾のように全員が決められたカリキュラムに従うのではなく、生徒により1人ひとり異なる目標と現状に対応可能です。インター校・ローカル校に通う生徒向け、あるいは日本人学校に通う生徒向けコースもあります。さらに「お子さんの生活を丁寧に考える」というコンセプトに基づき、通う学校、得意・不得意科目はもちろん、1週間の学習リズムにも配慮して、通塾回数・曜日・時間を柔軟に選択できるシステムを採用。英検対策や少人数のクラス指導コースもあります。



対象学年 / 小1～中3
休校日 / 日曜日

583 Orchard Road, #09-04 FORUM
Tel: 6733-5144
E-mail: sgwebmail@wao-corp.com
http://sg.wao-corp.com

早稲田アカデミー シンガポール校

日本国内校舎とのネットワークを生かした受験情報をもとに小中高生を指導。中学受験では四谷大塚予習シリーズを使用し、帰国校2科目受験から本格的4科目受験まで指導します。高校受験では徹底した先取り授業を行い、難関チャレンジテスト・開成・早慶・都立高校の実戦オープン模試で実力を測ります。高校部は早稲田渋谷シンガポール校のカリキュラムに準拠した学習体系となり、早稲田大学の内部推薦や指定校の推薦獲得を目標としています。



オーチャード校
対象学年 / 小1～中3
休校日 / 日曜日
ウエスト校
対象学年 / 小3～高3
休校日 / 日曜日
※ただし両校とも9月からは
休校日なし

■オーチャード校
360 Orchard Road,
#04-03 International Building
Tel: 6734-1969
E-mail: orchard@waseaca.com.sg
http://waseaca-singapore.com

■ウエスト校
3 Pandan Valley, #02-312A
Tel: 6469-1204
E-mail: west@waseaca.com.sg
http://waseacawest.web.fc2.com